

国語科 カリキュラム概要

●めざす高島市の子どもの姿（国語科を通して付けたい力）

- ・相手や場面、目的に応じて、「ふさわしいことば」を選んで使おうとする。
- ・表現されたものから「ふさわしいことば」の使い方を感じたり理解したりしようとする。

小中一貫教育指導の重点

○ 到達目標

- ・人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験した事や考えた事を話し、伝え合う喜びを味わう。

■ 保育・教育の重点

- ・相手の目を見て話をしたり、聞いたりするよう促す。
- ・遊びや生活の中で文字に関心がもてる環境づくりをする。
- ・絵本や物語などに親しむ活動を通して、友だちとイメージを広げながらお話づくりを楽しませる。

○ 到達目標

- ・話し合いや作文などあらゆる言語活動で培った力を活かして自分の思いや考えを自分らしく表現しようとする。
- ・書かれている順序、内容の中心、段落相互の関係を考えながら読もうとする。

■ 指導の重点

- ・相手を見て話す・聞く、何かを見せながら話す、尋ねられたことから外れないように答える力を育成する。
- ・相手を意識して書いたり、伝えたい内容の中心を詳しく書いたりする力を育成する。
- ・主語述語の関係を理解したり、場面の様子を想像したりさせながら、読む力を育成する。
- ・漢字と仮名、ローマ字を適切に使えるよう指導する。
- ・楽しみながら幅広く読書をすることに慣れ親しませる。

○ 到達目標

- ・学んだ言葉の技術をもとに話題や方向をとらえて的確に自己表現しようとする。
- ・様々な文章を読み、内容や要旨を的確に捉えようとする。

■ 指導の重点

- ・相手のことば（意見や質問）を受けて話す力を育成する。
- ・目的を意識して書く、描くように書く、また、段落のまとまり・つながりを考えて書く力を育成する。
- ・ことばの使われ方の良さに注意して読む、気に入った表現を集めながら読む力を育成する。
- ・文語調の響きに親しませる。
- ・修飾・被修飾の関係、接続語の働きを理解させる。
- ・読書を通して、ものの見方や考え方が広がるような指導をする。

○ 到達目標

- ・目的に応じてふさわしい言葉を選んで表現することにより言葉の感覚を磨き、自己を高めようとする。
- ・文章表現の仕方に関心したり、評価したりしながら読み、集めた情報を効果的に活用しようとする。

■ 指導の重点

- ・聞き手を引き込むように効果的に話す力を育成する。
- ・表現上の技法に加え、取り上げる事例や引用の効果も吟味して、相手を説得できるように書く力を育成する。
- ・文章のつながりやリズムを意識して推敲する力を育成する。
- ・文章の主題や主旨と、それぞれのことばとの関わりを意識して読み、表現効果が理解できるよう指導する。
- ・現代文と古文、常体と敬体、敬語等、それぞれの表現の良さや用途を理解できるよう指導する。
- ・読書を自分に役立て、自ら自己表現力を向上させる。

就学前

前期 小第1、2、3、4学年

中期 小第5、6、中第1(7)学年

後期 中第2(8)、3(9)学年

社会科 カリキュラム概要

●めざす高島市の子ども姿（社会科を通して付けたい力）

- ・基礎的・基本的な事項を身に付け、それを活用して課題解決しようとする。
- ・社会的事象に関心をもち、自ら思考し公正に判断し実践しようとする。

小中一貫教育指導の重点



○ 到達目標

- ・自分の生活に関係が深い地域の身近な人々に親しみをもつ。
- ・共同の遊具を大切にし、みんなで使うことができる。

■ 保育・教育の重点

- ・周囲の人が、「どのようなことをしているのか」ということに関心をもち、それらを取り入れて遊ばせる。



生活科との関連

○ 到達目標

- ・人々と関わることを楽しさを感じる。
- ・社会には公共物など、みんなが使うものやそれを支えている人々がいることを知る。

■ 指導の重点

- ・身近な人々や公共物に楽しく関わる活動を多く設定する。
- ・簡単な地図に親しませる。



○ 到達目標

- ・身近な地域を観察・調査し、調べたことや考えたことを表現するという基礎的・基本的な学び方を知る。
- ・身の周りの社会的事象や環境に興味・関心をもち、自分なりの考えをもつ。

■ 指導の重点

- ・身の周りの社会的事象や環境に興味・関心をもち、様々な方法を考えながら疑問点を追究していくことにより、基礎・基本が身に付くよう、指導する。
- ・追究した結果の伝え合いを通じた相互交流の学び合いの中で発表の楽しさを感じさせる。
- ・学校や自分の家の周辺を歩き、地域の様子を調べ資料にまとめる活動を設定する。



○ 到達目標

- ・基礎的・基本的な知識や学び方を身に付け、調べ学習や作業に意欲的に取り組み、自分の意見や考えを工夫して発表する。
- ・社会的・歴史的な事象や環境に興味・関心をもち、自分なりの考えをまとめる。

■ 指導の重点

- ・基礎・基本を積み上げ、地図や統計資料をもとに調べ学習や作業に意欲的に取り組ませ、見通しを持って学習が進められるように指導する。
- ・意見発表を通して、意欲的に学び合い、お互いに評価し合えるように工夫する。
- ・地域の産業、歴史、環境について調べ、自分の考えをまとめる活動を設定する。



○ 到達目標

- ・基礎的・基本的な知識や学び方を活用しながら、自ら課題を設定し、調査・探究して解決しようとする。
- ・社会的・歴史的な事象や環境に興味・関心をもち、広い視野で思考力・判断力・表現力を身に付ける。

■ 指導の重点

- ・自ら課題を設定し、資料を収集・精選し、調査・探究して解決することができるよう指導する。
- ・社会的な事象を多面的・多角的にとらえ、発表会やディベートなどを行い、思考力・判断力や表現力の向上を図る。
- ・地域の特色について、自らの課題をもとにまとめ、地域社会への理解を図る。



就学前

前期 小第1、2、3、4学年

中期 小第5、6、中第1(7)学年

後期 中第2(8)、3(9)学年

算数・数学科 カリキュラム概要

●めざす高島市の子どもの姿（算数・数学科を通して付けたい力）

- ・基礎的・基本的な事項を身に付け、意欲的に粘り強く課題に取り組む。
- ・学習したことを日常生活・他教科等への学習に生かそうとする。

小中一貫教育指導の重点

○ 到達目標

- ・身近な事物を見たり、扱ったりする中で、物の性質や数、量、形等に対する豊かな感覚をもつ。
- ・生活における時間に関心をもつ。

■ 保育・教育の重点

- ・物の性質や数、量、形等の概念を、生活や遊びの中に取り入れる。

○ 到達目標

- ・四則計算の意味を理解し、正確に計算できる。
- ・具体物を用いて問題解決を図ろうとする。
- ・数の大きさ、量、図形についての感覚を身に付ける。

■ 指導の重点

- ・整数、分数、小数等、身近で使われている数について生活経験や既習事項と関連付けて考えさせる。(数と計算)
- ・十進位取り記数法の見方や概念、計算の仕方について理解させ、図や絵などを使って、自分の考えを筋道立てて説明する力を育てる。(数と計算)
- ・比較や測定の方法を理解させ、量感を身に付けさせる。(量と測定)
- ・図形を構成要素に着目して捉えさせる。(図形)
- ・数量やその関係を言葉、数、式、図、表、グラフなどに表したり調べさせたりする。(数量関係)

○ 到達目標

- ・既習事項を抽象的な概念へつなげ、合理的に考えられる。
- ・多様な考えを理解し、何が問題解決に必要なのか判断できる。
- ・解法の根拠を、言葉を使って正しく説明できる。

■ 指導の重点

- ・整数、小数、分数についての四則計算を理解させ、問題解決に活用させる。(数と計算)
- ・数量の関係や法則等を□や文字を用いて簡潔に表し、問題解決に活用させる。(数と計算)
- ・量の求め方・単位換算について、自分の考えを説明する力を育てる。(量と測定)
- ・図形の構成要素の位置関係を平面や空間の中で理解させる。(図形)
- ・伴って変わる二つの量について、それらの変化や対応を調べることを通して、比例・反比例の関係について理解させる。(数量関係)
- ・目的に応じて資料を収集し、表やグラフに整理し、資料の傾向を読み取らせる。(数量関係)

○ 到達目標

- ・問題解決にあたり、既習事項を目的に応じて使うことができる。
- ・直接的解決、間接的解決などいろいろな考え方ができる。
- ・解法の根拠を明示して、相手に理解できるように説明することができる。

■ 指導の重点

- ・身の回りの数量やその関係を数や文字を用いた式で表現し、目的に応じて処理し、式の意味を読み取り、伝え合う場を設ける。(式と計算)
- ・平面図形の性質について、数学的に推論し、定理を正確に使って説明させる。(図形、量と測定)
- ・伴って変わる二つの数量について、表やグラフ・式の相互関係を理解し、いろいろな事象の中に関数関係があることを説明する力を育てる。(数量関係)
- ・確率を用いて不確定な事象を捉え、説明させる。(数量関係)
- ・確率の必要性和意味を理解し、確率を求めさせる。(数量関係)

就学前

前期 小第1、2、3、4学年

中期 小第5、6、中第1(7)学年

後期 中第2(8)、3(9)学年

理科 カリキュラム概要

●めざす高島市の子どもの姿（理科を通して付けたい力）

- ・高島市の豊かな自然に興味・関心を持ち、自ら進んで関わろうとする。
- ・科学的な見方・考え方を身につけ、見通しを持って観察・実験をしようとする。

小中一貫教育指導の重点

○ 到達目標

- ・身近な自然に自ら関わり、発見したり、考えたりしたことを遊びや生活に取り入れようとする。

■ 保育・教育の重点

- ・身近な自然に親しみ、友だちと共感しながら、興味や関心を高める環境づくりをする。
- ・身近にある事物の働きや仕組み、性質に興味や関心をもてるような言葉かけをする。

生活科との関連

○ 到達目標

- ・身近な動植物などの自然に関心をもち、積極的に自分の生活に取り入れようとする。

■ 指導の重点

- ・自然の中で活動する楽しさを味わわせ、その体験を通して気付いたことを伝え合う機会を設定する。

○ 到達目標

- ・五感を通して自然に親しむ。
- ・自然に親しむ中で見出した疑問に興味・関心をもって解決しようとする。
- ・観察や実験の対象を比べたり、働きや時間などと関係付けたりしながら調べようとする。

■ 指導の重点

- ・単に自然に触れたり、慣れ親しんだりさせるだけでなく、児童の興味・関心を高めるため、自然の不思議さやおもしろさを実感させる。
- ・〈比べる〉〈関係付ける〉活動を大切に、その対象となるものや追究の場を準備・設定するよう心掛け、児童の科学的な見方・考え方を育む。

○ 到達目標

- ・自然に親しみ、見通しをもって観察や実験をしようとする。
- ・自らの生活経験や学習経験を基にしながら、見出した課題を解決しようとする。
- ・自然の事物・現象に関わる条件に目を向けたり、変化や働きを起こす要因や規則性を推論したりしながら調べようとする。

■ 指導の重点

- ・観察・実験の目的を明らかにするとともに、方法・予想・結果・考察といった学習過程を常に意識させ、見通しをもって取り組めるようにする。
- ・解決の糸口を身近な現象から見つけさせたり、学習した内容が生活に生かされていることに気付かせたりする。

○ 到達目標

- ・自然に興味・関心をもち、仮説を立てて観察や実験をする。
- ・生活経験から問題を見つけ出し、自ら進んで解決に取り組もうとする。
- ・自然の事物・現象について、観察や実験のデータを基に論理的に説明しようとする。

■ 指導の重点

- ・課題や疑問点を明確に捉えさせ、仮説を立て適切な観察・実験を計画的におこなわせる。その結果を客観的に分析し課題や疑問点の解決に向けて論理的に考察させる。
- ・身近な現象と学習内容を結びつけ、科学と人間生活との関わりを理解し、その有用性を実感させる。

就学前

前期 小第1、2、3、4学年

中期 小第5、6、中第1(7)学年

後期 中第2(8)、3(9)学年

音楽科 カリキュラム概要

●めざす高島市の子ども姿（音楽科を通してつきたい力）

- ・音楽を愛好し、音楽的な感性を身に付け、思いや意図をもって表現する。
- ・多様な音楽から、特徴付けている要素や仕組みを聴き取り、味わって鑑賞する。
- ・我が国の音楽文化に親しみ一層愛着をもつとともに、諸外国の音楽文化を理解し尊重する。

小中一貫教育指導の重点

○ 到達目標

- ・音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。
- ・色々な音楽の表現の楽しさを感じとる。

■ 保育・教育の重点

- ・みんなと一緒に歌ったり、聴いたり、踊ったりすることにより、音楽に親しませる。
- ・発達段階に応じたわらべうた遊びを通して生きる知恵を育てる。

○ 到達目標

- ・音楽活動への意欲を高め、生活の中で、積極的に音楽に親しもうとする。
- ・基礎的な表現の能力を伸ばし、自ら音楽表現を楽しもうとする。
- ・様々な音楽に親しみ、基礎的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽を味わって聴こうとする。

■ 指導の重点

- ・音楽のよさや面白さ、美しさを感じ、自ら歌ったり、楽器を演奏したりするような指導の充実を図る。
- ・歌唱、器楽、音楽づくりの活動をする上で、必要とされる基礎的な能力の習得を目指す。
- ・わらべうたや地域の伝承歌・唱歌を発達段階に応じて適宜取り入れ、生活の中で音楽に親しむ態度と習慣を育てる。

○ 到達目標

- ・音楽活動の楽しさを体験し、音楽によって生活を明るく豊かにする。
- ・基礎的な表現の技能を身に付け、それを基に、創意工夫して表現する。
- ・様々な音楽のよさや美しさを味わい、主体的に鑑賞しようとする。

■ 指導の重点

- ・創造的に音楽にかかわり、音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、創意工夫して表現したり、主体的に鑑賞したりする指導の充実を図る。
- ・一人ひとりの感じ方を大事にし、互いに協力しながら表現及び鑑賞の仕方を工夫できるような学習指導を目指す。
- ・我が国や諸外国に伝わる音楽に興味・関心を深めることができるよう、視聴覚教材や出張演奏等を活用する。

○ 到達目標

- ・音楽活動の楽しさを体験し、生涯にわたって音楽に親しもうとする。
- ・多様な音楽や音楽表現のよさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。
- ・多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する。

■ 指導の重点

- ・自分の思い描いたイメージを表現するために、音楽的な基礎知識（音色・音階・音素材・構成など）の習得を目指す。
- ・コミュニケーション能力を充実させながら、表現の楽しさや喜びを感じることができるよう学習指導を目指す。
- ・日本や世界の音楽など、その特性や背景となる文化・歴史などとの関連、音楽を形作る要素や構造との関わりを理解し、根拠をもって音楽のよさを述べる学習活動を取り入れる。

就学前

前期 小第1、2、3、4学年

中期 小第5、6、中第1(7)学年

後期 中第2(8)、3(9)学年

図画工作・美術科 カリキュラム概要

●めざす高島市の子ども姿（図画工作・美術科を通して付けたい力）

- ・自分の思いや考えを大切にし、意欲的に表現する。
- ・基礎的な技能を身に付け、美術を愛好する豊かな心をもつ。

小中一貫教育指導の重点



○ 到達目標

- ・友達と協力し、描いたり、作ったりすることを楽しみ、それを遊びの中で使ったり、部屋に飾ったりする。
- ・身近にある物を見たり、触れたりしてイメージを広げる。

■ 保育・教育の重点

- ・様々な素材や用具に親しみ、工夫して遊ぶようにさせる。
- ・自分や友だちの制作したものをお互いに見せ合い、それについて話す場を多くもつ。



○ 到達目標

- ・材料や素材、題材から楽しく発想し、つくりだす喜びを味わう。
- ・五感を働かせ、技能を生かしながら、楽しく造形活動に取り組む。
- ・身の回りの作品の面白さや楽しさを感じとる。

■ 指導の重点

- ・素材や材料を豊富に用意したり、場所の設定を工夫したりして、体全体で造形活動の楽しさを感じとらせる。
- ・材料や用具の特徴を生かし、計画的に造形活動を進めさせる。
- ・友だちの作品の楽しさやよさを発表し合うなど、言語活動を取り入れる。



○ 到達目標

- ・想像力を働かせて豊かに発想し、つくりだす喜びを味わいながら、楽しく美術活動に取り組む。
- ・材料や素材の特徴をとらえ、主題の表し方を工夫しながら、主体的に造形活動に取り組む。
- ・身近な作品、我が国や諸外国の美術作品、自然の造形などのよさや美しさを感じ、美術文化に対する関心をもつ。

■ 指導の重点

- ・前期までの経験や技能を総合的に生かし、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことを意欲的に表現させる。
- ・友だちの作品や暮らしの中の美術作品のよさや表現の意図を発表し合うなど、言語活動を取り入れる。



○ 到達目標

- ・対象から感じとる力や想像力を高め、主体的に美術活動に取り組み、美術を愛好する心情を深める。
- ・独創的、総合的な見方や考え方で豊かに発想・構想し、自分の表現方法を創意工夫しながら造形活動に取り組む。
- ・自然の造形、美術作品、文化遺産などについて関心を高めるとともに理解を深め、美術を通して心豊かに生きる。

■ 指導の重点

- ・表現の意図に合わせた材料・用具を取捨選択し、感性や想像力を働かせながら、自分らしく表現させる。
- ・様々な美術文化に触れる機会を設け、自分なりの価値観を持たせるとともに、作者の心情や作品の意図、作品そのものの造形的な美しさやよさを感じとったり交流したりして、美的感覚を高める。

就学前

前期 小第1、2、3、4学年

中期 小第5、6、中第1(7)学年

後期 中第2(8)、3(9)学年

家庭科 カリキュラム概要

●めざす高島市の子どもの姿（家庭科を通して付けたい力）

- ・生活の自立に必要な衣食住などに関する基礎的な知識・技能を身に付ける。
- ・家庭生活を大切にすることを育む。
- ・家庭・社会等との関わりを考えて、よりよい生活を送るための実践的な態度を育てる。

小中一貫教育指導の重点

○ 到達目標

・健康・安全等生活に必要な習慣や態度を身につけることの大切さを理解する。

■ 保育・教育の重点

- ・栽培活動の中で、野菜を育てることの大変さを知り、自分たちが育てた野菜を感謝して食す心を育てる。
- ・身近な人と協力して、調理する楽しさを感じ取らせる。
- ・友だちと協力して、最後まで、片付けや掃除ができるように、声かけをする。

■ 他教科との関連

- ・地域社会の一員としての自覚をもち、地域に対する誇りと愛情を育てる。（社会）
- ・自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活できるようにする。（生活）
- ・健康の大切さを認識するとともに、健康によい生活について理解できるようにする。（体育）
- ・生物はその周辺の環境とかがわり合い生きていることを理解させる。（理科）
- ・学校給食を一つの事例として、食に関する指導を行い、望ましい食習慣の形成を図る。（特別活動）

○ 到達目標

- ・家庭生活への関心を高め、生活の営みの大切さに気付き、基礎的・基本的な知識及び技能を習得する。
- ・日常の食事への関心を高め、食事の大切さに気付き、調理に関する基礎的・基本的な知識及び技能を習得する。
- ・衣服、住まい方への関心を高め、衣服、住まい方及び製作に関する基礎的・基本的な知識及び技能を習得する。
- ・環境に配慮することの大切さに気付き、物の選択、購入及び活用に関する基礎的・基本的な知識及び技能を習得する。

■ 指導の重点

- ・家庭生活をよりよく工夫する能力と実践的な態度を育てる。
- ・食生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育てる。
- ・衣生活や住生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育てる。
- ・身近な消費生活や環境をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育てる。

○ 到達目標

- ・家族や幼児に関心と理解を深め、家族や幼児に主体的に関わることができる。
- ・中学生の栄養と調理についての基礎的・基本的な技術を習得し、地域の食文化についても理解を深める。
- ・衣服と住居の機能について理解を深め、基礎的・基本的な知識及び技能を習得する。
- ・消費生活と環境についての基礎的・基本的な知識及び技術を習得する。

■ 指導の重点

- ・課題をもって家庭生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。
- ・課題をもって食生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。
- ・課題をもって衣生活と住生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。
- ・持続可能な社会を展望して、環境に配慮した生活を主体的に営む能力と態度を育てる。

就学前

前期 小第1、2、3、4学年

中期 小第5、6、中第1(7)学年

後期 中第2(8)、3(9)学年

体育・保健体育科 カリキュラム概要

●めざす高島市の子どもの姿（体育・保健体育を通して付けたい力）

- ・運動の楽しさを実感し、体力の向上を図ろうとする。
- ・自分の体力や健康について知り、よりよい生活を送ろうとする。

小中一貫教育指導の重点

○ 到達目標

- ・集団遊びの楽しさを感じ、自分達できまりを作ったり、守ったりすることの大切さを知る。
- ・運動や集団的な遊びを通して、体を動かすことを楽しむ。

■ 保育・教育の重点

- ・体を動かすことの楽しさを体験し、自ら体を動かそうとする意欲を養う。
- ・ルールを守って遊ぶことが、集団遊びの楽しさにつながることを感じとらせる。

○ 到達目標

- ・運動に進んで取り組み、きまりを守りみんなと仲良く運動しようとする。
- ・基本的な動きを身に付けるために、活動を工夫することができる。
- ・運動の楽しさや喜びに触れ、基本的な動きや技ができる。

■ 指導の重点

- ・基礎的な動きや遊び方を身に付け、意欲的に活動し、体力を養う。
- ・めあてをたて、簡単なきまりや活動を工夫し運動の楽しさを体験させる。
- ・健康の大切さを知り、健康によい生活の仕方を理解させる。

○ 到達目標

- ・運動に積極的に取り組み、ルールやマナーを守り、分担した役割を果たすなど、健康安全に気を配ろうとする。
- ・運動の特性を理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができる。
- ・運動の楽しさや喜びを味わい、基本的な技能を習得するとともに、体力を高めることができる。

■ 指導の重点

- ・各種の運動に応じた基本的な技能を身に付け、体力の向上を図る。
- ・自己にあった運動方法を考え、自らの課題を解決しようとする学び方の習得を図る。
- ・心と体は一体であることを知り、体の発達と心の健康について理解させる。

○ 到達目標

- ・運動に自主的に取り組み、自己の責任を果たそうとするなど、自ら健康安全を確保する。
- ・運動を適切に行い、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができる。
- ・運動の楽しさや喜びを味わい、知識や技能を高め、継続して運動を豊かに実践することができる。

■ 指導の重点

- ・自己の個性を伸ばし、生涯にわたって運動に親しむための資質や能力の向上を図る。
- ・自己の能力・適性・興味・関心に応じた運動種目を選択し、学習を計画、実践させる。
- ・健康な生活と疾病予防について理解し、自己の健康を管理し改善を図ろうとする態度を養う。

就学前

前期 小第1、2、3、4学年

中期 小第5、6、中第1(7)学年

後期 中第2(8)、3(9)学年

外国語科 カリキュラム概要

●めざす高島市の子どもの姿（外国語科を通して付けたい力）

- ・ 誰とも積極的にコミュニケーションを図ろうとする。
- ・ 英語の基礎的・基本的事項を身に付け、多くの人に発信しようとする。

小中一貫教育指導の重点



○ 到達目標

- ・ 英語の音声やリズムを体感し、楽しく歌ったり、踊ったりする。
- ・ 外国の人と楽しくふれあう。

■ 保育・教育の重点

- ・ 簡単な英語の歌を歌ったり、楽しく踊ったりさせる。
- ・ 外国の人と、ハイタッチや握手、アイコンタクト、ジェスチャーなどをして、ふれ合う機会を多く設定する。



○ 到達目標

- ・ 自分の気持ちを伝え、進んで人と関わろうとする。
- ・ 英語の音声やリズムに慣れ親しむ。
- ・ 異なる言語や文化があることに気付く。

■ 指導の重点

- ・ 外国語での活動を通して、コミュニケーションの楽しさを体感させる。
- ・ 英語の歌やゲーム、絵本などを用いて体験的な活動を行い、英語に慣れ親しませる。
- ・ 高島市外国語活動指導助手とのふれ合いを通して、外国の文化に親しませる。



○ 到達目標

- ・ 相手の気持ちを思いやりながら、自分の思いや考えを伝え、誰とも進んで関わろうとする。
- ・ 英語の音声やリズムに慣れ親しむとともに、英語でのコミュニケーションに慣れる。
- ・ 異なる言語や文化に関心を持ち、日本との違いに気付く。

■ 指導の重点

- ・ 友達と積極的にコミュニケーションを図り、課題を成し遂げたり、問題を解決したりする活動を設定する。
- ・ 簡単な英語を駆使しながら、自分の思いや考えを発信し、通じ合えることの喜びを実感させる。
- ・ 異文化について、自ら調べたり、体験したりする活動を多く設定する。



○ 到達目標

- ・ 初歩的な英語で述べられる人の思いや考えに積極的に耳を傾け、理解しようとする。
- ・ 自分の思いや考えをまとめ、初歩的な英語を用いて、人に伝えることができる。
- ・ 日本文化、および異文化に対する理解を深め、様々な国の人と共に生きていこうとする。

■ 指導の重点

- ・ 身近な話題や興味深い事柄を取り上げ、英語で意欲的に聞いたり、伝えたりしようとする活動を設定する。
- ・ 基礎的・基本的事項の確実な定着を図るとともに、それを用いて表現する機会をもたせる。
- ・ 異文化を理解し、積極的に日本文化を伝えようとする活動を設定する。



就学前

前期 小第1、2、3、4学年

中期 小第5、6、中第1(7)学年

後期 中第2(8)、3(9)学年

道徳 カリキュラム概要

●めざす高島市の子ども姿（道徳を通して付けたい力）

- ・よりよく生きる子ども
- ・やさしさと高い志を持つ子ども
- ・夢の実現に向けて、粘り強く努力しようとする子ども（致良知・知行合一）

小中一貫教育指導の重点

○ 到達目標

- ・進んで挨拶をする。
 - ・自分を大切にする心を育て、友だちを大切にすることを学ぶ。
 - ・友だちとの関わりを通して、人への接し方を学ぶ。
- 保育・教育の重点
- ・藤樹紙芝居や藤樹カルタあそびを通して優しい心や素直な気持ちに触れさせる。
 - ・友だちとの遊びの中で、仲間意識を深め、認め合える雰囲気づくりをする。

■ 指導の重点

- ・生きることの喜びを感じ、生命あるものを大切にしようとする心を育てる。
- ・身近な人とのかかわりの中で、自分や友だちのよさに気づくことができるようにする。
- ・夢や希望をもつことができるようになる。

■ 指導の重点

- ・生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する態度を育成する。
- ・自分や身の回りの人々への理解を深め、積極的にかかわろうとすることができるようにする。
- ・夢や希望をもち、目標に向かって努力することができるようにする。

■ 指導の重点

- ・人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培う。
- ・自己理解を深め、個性の伸長に努める。
- ・自己の生き方を追究し、理想の実現ために努力することができるようにする。

就学前

前期 小第1、2、3、4学年

中期 小第5、6、中第1(7)学年

後期 中第2(8)、3(9)学年